

平成 28 年度第 2 回 羽島市本庁舎検討委員会 議事要旨

日 時	平成 29 年 3 月 22 日 (水) 午後 2 時 00 分から 3 時 30 分
場 所	羽島市役所本庁舎 委員会室
出席者	<p>[検討委員]</p> <p>犬飼委員長、内田委員、木下委員、清水委員</p> <p>[市関係者]</p> <p>事務局 (総務部管財課) : 堀総務部長、入山管財課長、伊藤同課長補佐、鈴木同課長補佐、株式会社浦野設計岐阜支社 : 栗木、加藤、都筑、馬場、杉山</p> <p>[傍聴者]</p> <p>傍聴者 4 名</p>
要 旨	<p>会議に先立ち、報道機関の写真撮影について委員の承諾を得る。</p> <p><u>1. 開会・あいさつ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員 5 名のうち、4 名が出席、1 名が欠席。 <ul style="list-style-type: none"> ・岐阜工業高等専門学校建築学科 教授 犬飼委員長 (出席) ・岐阜大学総合情報メディアセンター 教授 内田委員 (出席) ・岐阜大学工学部社会基盤工学科 准教授 木下委員 (出席) ・岐阜工業高等専門学校建築学科 准教授 清水委員 (出席) ・元岐阜県職員 石川委員 (欠席) <p><u>2. 議題</u></p> <p>議題 (1) 現庁舎の課題・問題点について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①耐震性調査から見える課題・問題点、②施設運営から見える課題問題点について、事務局及び株式会社浦野設計より内容説明を行う。 <p>委員長 :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議題 (1) の内容について、意見があれば発言を求める。 <p>委員 :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・執務室面積の不足が問題点とされているが、面積不足の程度を定量的に示して頂けないか。 <p>事務局 :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国の基準によると、執務面積は正職員数一人あたり 35.3 m²とされ、本庁舎では約 8000 m²程度の面積が必要となるが、現庁舎は約 4700 m²である。 <p>委員 :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部局の分散により利便性が低いことが問題点とされているが、庁舎組織の業務体系の見直しにより、利便性の向上が可能と思われる。

議題（２）現庁舎の耐震改修について

- ・①耐震化工事について、事務局及び株式会社浦野設計より内容説明を行う。

委員長：

- ・議題（２）の内容について、意見があれば発言を求める。

委員：

- ・羽島市庁舎の評価は、大きく次の３つの点に整理される。
 - 1 羽島市のシンボルであること
 - 2 建物自体が美しいこと
 - 3 地元出身の坂倉準三の作品であること

委員：

- ・補強材がバルコニーと干渉する部分は一時撤去復旧とあるが、実質的にはバルコニー全撤去し、同じ形状にて造り直すという理解でよいか。

浦野設計：

- ・バルコニーの全面撤去ではない。バルコニー床は柱周りのみ撤去し、その他の部分は出来るだけ残す。

委員：

- ・耐震改修工法としては、F案免震レトロフィット工法を除き、一般的な工法が示されていると思われる。
- ・市としては耐震性能の重要度係数をどのように設定すべきと考えているか。

事務局：

- ・平成７年の耐震診断時に重要度係数 1.25 を採用しているため、比較しやすいよう第１回検討委員会の資料では重要度係数 1.25 とした。しかし、本庁舎は、防災拠点施設として考えるべきであるということから、耐震補強工事をする場合には重要度係数 1.5 を採用すべきと考えている。

委員：

- ・重要度係数 1.5 ということは、A案においても外部補強が必要であり、F案以外は外部補強が必要となる。

委員：

- ・F案においても外部補強は無いが、補強によりまわりの池は変更されるため、周囲を含めた外観は変わる。

委員：

- ・市民サービスの低下という点はどこまで考えているか。

事務局：

- ・エレベーターやエスカレーターが無い、部局が分散している等、内部の見直しも含めて市民サービスの向上に向けた検討が必要である。工事中は仮設庁舎により、現況のサービスを維持する。

委員：

- ・現庁舎を残すのであれば、用途替えをしてでも、出来るだけ外観を変えずにきちんとした形で残すことが望ましい。

内田委員：

- ・F案免震レトロフィットは圧倒的に概算工事費が高いが、F案の可能性はあるか。

事務局：

- ・仮設庁舎や、長寿命化改修等の費用を含めると、費用面で大きな負担となるため、市の財政上の観点から市民の理解を得るのは難しいのではないかと。ただし、選択肢の一つとして引き続き検討をしていきたい。
- ・②庁舎の継続利用について、株式会社浦野設計より内容説明を行う。

委員：

- ・23～24億円の費用をかけて本庁舎を改修した場合、どのくらいの期間継続利用することが出来るのか。

浦野設計：

- ・概算で申し上げると耐用年数として15年程度である。また、経過観察しながら維持管理により延命出来ると考えられる。

委員：

- ・今回の議題ではないが、例えば建替えの場合にはどのくらいの予算が見込まれるのか。

事務局：

- ・現在建替えの検討を進めているわけではないが、参考までに近隣の自治体で約10,000～16,000㎡の庁舎建設では、40万円/㎡程度となっている。

委員：

- ・用途を変えて庁舎としては使わないという選択肢はないか。

事務局：

- ・選択肢の一つになり得る。現庁舎の狭隘な執務環境の中で、補強後も市庁舎機能を維持できるかという点が事務方の懸念するところである。耐震補強した上で市役所の用途以

外に変えて坂倉建築を残していくというご意見があれば選択肢の一つに加えた上で、最善の方法を探っていきたい。

委員：

- ・外観のデザインを考慮した新しい補強方法の提案はないか。

浦野設計：

- ・方法としては考えられる。今回は、一般的な工法として提案している。建物の特徴として、北東の下屋部分があり補強位置が難しく、また南北方向に長く、補強構面がうまく確保できないという現状もある。

委員：

- ・新しいデザインとなると、元々の建物の文化性も絡むため、難しい検討となる。

委員：

- ・まったく外観を変えてはいけないわけではない。補強により誰もが美しさを増したと思えることがベストである。国の登録文化財でも、改修する際には、通常望見できる範囲の1/4以内であれば、手を加えることが出来るので、外観を変えないことに固執する必要はない。
- ・内部に多くのブレースがあることで、非常に息苦しい空間になる恐れがある。

議題（3）今後の予定について

5月9日 14：00～ 第3回 検討委員会を開催予定

3. 閉会

以上